



学校だより

3月号
横浜市立桜台小学校
令和3年2月26日発行

教育の継承

校長 小宮 健

2度目の緊急事態宣言下、令和2年度も残すところ1か月となりました。新型コロナウイルス感染症対策に追われた一年間でしたが、皆様のご理解ご協力のおかげで年度末を迎えられることに心から感謝申し上げます。

横浜市立学校ガイドラインに基づき、子どもたちのために試行錯誤しながら教職員一同、力を合わせて本校の教育活動を展開してまいりました。何といたっても一番評価したいのは、様々な予防対策と制限が課せられる中、我慢しながら頑張ってきた子どもたちです。その誠実さに頭が下がる思いでいっぱいです。学年のまとめとして十分に価値づけていきたいと思えます。

そんな桜台小をリードしてきた6年生と卒業前に向き合って話がしたくて、12月から1月末までの給食後の時間帯に6年生4人一組で私とのミーティングを行いました。各自の自己紹介から始まり、小学校生活での思い出、中学校に向けた目標や将来の夢について語っていただきました。さすがは6年生。どの児童も自分の考えをしっかりともち、堂々と表現できる、いや、主張さえする姿に感心しました。3月19日（金）に第65回卒業証書授与式を挙行いたします。六年間の成長の証である卒業証書を一人ひとりに心を込めて渡したいと思えます。

—— 昨年10月のある朝、教え子であるA高のI教諭から「おはようございます。ご無沙汰しています。昨日、T高に勝ってウインターカップ出場決めました！」とメールが届きました。このI教諭は27年前に私が当時6年の担任として見送った初めての卒業生です。I教諭は小学校から高校までバスケットボール部のキャプテンとして活躍し、インターハイ（高校総体）にも出場しました。大学ではコーチング理論を学び、卒業後、高校の教員となり、バスケットボール部の監督として熱心な指導を続け、今回の神奈川県予選で自身の母校である強豪T高校を破って、A高校の男子チームを念願の全国大会へと導いたのです。

県勢唯一の公立校としてウインターカップ（全国大会）に出場するのは大変価値のあることで、新聞には「個々の技術を高める指導に定評があるI監督」「努力すれば夢はかなうという『努力夢現』をスローガンとするA高」と指導者に対する高い評価のコメントやこれまでのチームの成長ぶりが記されていました。私は教え子の記事を手に取り、久しぶりに深い喜びを味わいました。このI教諭への想いは元担任としてあるいは教育に携わる先輩として「立派になったなあ」という感情もあったと思いますが、そんな狭い領域を跳び越したもっともっと大きな、ひとりの人間としての感動や喜びだったのです。

教師が教え子へ、教え子が大人になり、次の世代へ…

先輩が後輩へ、後輩が成長し、またその後輩へ…

親が我が子へ、我が子が親となり、またその子へ…

教育はどの時代も、どの場面でも継承されていくものであってほしいと願います。

最後に、令和3年度からの学校経営にかかわる主な変更点をお伝えします。

- ① 学級の枠を超えた組織的な児童の見取りと安定した学年経営を図るとともに、教員が担当する教科を絞り、より専門性の高い授業を実現していくために高学年における一部教科分担制を導入します。
- ② 成長に即した活動をより充実させていくために運動会は11月、土曜参観は6月に実施します。また「新学習指導要領の着実な実施」と「持続可能な教育活動の展開」の視点から、令和3年度以降、市体育大会（6年生が参加していた秋の対外行事）は実施しないことになりました。

地域・保護者を始めとするすべての皆様、今年度も本校の児童そして教育活動を温かく見守り、応援していただき、本当にありがとうございました。来年度も桜台小学校をどうぞよろしくお願いいたします。